

# 野菜畑作生産情報 第2号

平成27年5月20日  
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



◎小麦の出穂期が早まっているので、赤かび病の適期防除に努めましょう！  
◎野菜の生育が早まっているので、適正管理を徹底しましょう！

## 畑作物

### 1 小麦

#### (1) 生育状況

ア 草丈は、平年を上回っている。

イ 出穂期は、幼穂形成期以降も高温で推移したことから、ネバリゴシは14日程度早く、キタカミコムギは10日程度早まっている。なお、消雪が遅れた黒石では、ネバリゴシで6日早い5月16日となった。

エ うどんこ病が見られている。

表-1 小麦の越冬後の生育状況（5月10日現在）

場所	年次	ネバリゴシ				キタカミコムギ			
		草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	幼穂形成期 (月/日)	出穂期	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	幼穂形成期 (月/日)	出穂期
農林総合 研究所 (黒石)	本年	47.1	475	4/9	5/16	52.2	473	4/15	未達
	平年差・比	(109%)	(70%)	(早4日)	(早6日)	(107%)	(74%)	(±0日)	
	平年	43.2	674	4/13	5/22	49.0	637	4/15	5/24
野菜 研究所 (六戸)	本年	81.6	912	3/17	5/10	/			
	平年差・比	(155%)	(93%)	(早16日)	(早15日)				
	平年	52.6	983	4/2	5/25				
つがる市 (旧木造)	本年	72.1	558	3/8	5/10	70.6	398	3/9	5/12
	平年差・比	(139%)	(87%)	(早19日)	(早12日)	(122%)	(72%)	(早24日)	(早10日)
	平年	51.7	644	3/27	5/22	58.0	551	4/2	5/22
十和田市	本年	67.5	988	3/15	5/10	/			
	平年差・比	(164%)	(124%)	(早21日)	(早14日)				
	平年	41.2	796	4/5	5/24				
	前年	33.8	505	4/16	5/20	37.1	547	4/19	5/23
	前年	40.7	810	4/13	5/23	47.7	406	3/28	5/19
	前年	33.6	780	4/10	5/24				

注) ①農林総合研究所、野菜研究所は作況試験ほ、つがる市(旧木造)、十和田市は生育観測ほの調査成績。

②平年値は、農林総合研究所の「ネバリゴシ」、「キタカミコムギ」が過去9か年、野菜研究所の「ネバリゴシ」がH20～H26年産(24年産(出芽不良)を除く)の6か年、つがる市(旧木造)と十和田市の「ネバリゴシ」が過去13か年、つがる市(旧木造)の「キタカミコムギ」が過去19か年の平均値。

#### (2) 今後の農作業の留意点

ア うどんこ病の防除は、病斑が止葉直下葉に発生した直後に薬剤散布を行うと効果的である。ただし、アミスター20フロアブルは出穂後は使用しない(赤かび病のカビ毒汚染低減効果が劣る事例あり)。

イ 赤かび病は、収量や品質の低下をもたらすばかりでなく、カビ毒を含むため、赤

かび粒の混入割合が1万粒に4粒を超えると流通できなくなるので、開花始めから開花期に1回目の防除を行い、その7日後に2回目の防除を行う。防除後、天候不順が続く蔓延のおそれがある場合は追加防除を行う。

ウ 湿害防止のため、排水口や明きよの点検補修を行いほ場の排水に努める。

エ 生育が遅れ、出穂期に達していない場合は、一穂粒数を確保しタンパク質含有率を高めるため、2回目の追肥を出穂期までに行う。追肥量は10a当たり窒素成分で2kgを基準とするが、茎葉の繁茂状況や葉色等を勘案して調整する。(平成19年度指導奨励事項・指導参考資料等の「小麦ネバリゴシのタンパク質含有量を高めるための追肥は葉色値(SPAD値)で判断できる」を参照)

オ 出穂期が早まっているため、収穫期も早まることが予想される。今後の登熟状況に注意し、6月下旬以降の収穫に備える。

## 野菜

### 1 にんにく

#### (1) 生育状況

ア 地上部の生育は平年を上回っているが、一部の地域では少雨の影響による生育抑制が見られる。

イ りん片分化期は、平年より6日から11日早かった。

ウ 春腐病、さび病の発生は少ない。

エ 乾燥・強風による葉先枯れが見られる。

表-2 にんにくの生育状況(5月10日現在)

場所	年次	草丈 (cm)	葉数 (枚)	茎径 (mm)	りん片 分化期 (月日)	収穫期 (月日)	備考
野菜研究所 (六戸町)	本年 (平比)	95.1 (124%)	12.7 (128%)	20.7 (105%)	4/13 11日早	— (—)	透明マルチ
	平年	77.0	9.9	19.7	4/24	7/6	
	前年	72.0	9.3	16.7	4/27	7/7	
藤崎町 若松 (旧常盤村)	本年 (平比)	51.2 (95%)	6.4 (98%)	13.6 (77%)	4/24 6日早	— (—)	無マルチ
	平年	54.0	6.5	17.7	4/30	7/2	
	前年	47.6	5.9	15.2	4/30	7/3	
七戸町 榎林 (旧天間林村)	本年 (平比)	81.7 (139%)	8.3 (114%)	23.3 (136%)	4/19 6日早	— (—)	グリーンマルチ
	平年	58.9	7.3	17.1	4/25	6/30	
	前年	62.9	7.3	18.0	4/27	6/25	
田子町 日ノ沢	本年 (平比)	76.1 (124%)	8.7 (114%)	19.5 (109%)	4/18 6日早	— (—)	グリーンマルチ
	平年	61.4	7.6	17.9	4/24	6/30	
	前年	69.3	8.8	17.3	4/23	6/27	

- 注) ①平年：藤崎町は平成9年～26年の18か年の平均値。  
七戸町は平成8年～26年(平成25年を除く)の18か年の平均値。  
田子町は平成8年～26年の19か年の平均値。  
②種子：藤崎町は白玉王(15～18g)。  
七戸町は白玉王(11g)。  
田子町は白玉王(10～12g)。  
③葉数：野菜研究所は抽出葉数。  
藤崎町、七戸町、田子町は生葉数。

## (2) 今後の農作業の留意点

### ア 今後の見通し

りん片分化期が平年より早く、生育量も上回っていることから、今後の生育は早まるものと予想される。

### イ 病害虫の適期防除

(ア) 春腐病は降雨や濃霧が続くと急増するので、天気予報で3～4日曇雨天が続くと予想される場合には、降雨前の予防散布を徹底する。また、腐敗が進行している株は伝染源となるので見つけ次第抜き取る。

(イ) さび病が発生しているほ場では、効果持続期間が長い薬剤を散布して、病勢の進展を抑える。

(ウ) 葉枯病、黄斑病、白斑葉枯病、ネギコガなどは、ほ場を見回り、早期発見早期防除を徹底する。

### ウ とうの摘み取り

抽だいが始まったら、随時とうを摘み取り、球の肥大を促す。とうの摘み取りは、珠芽が葉鞘から完全に抜け出してから行う。

## 2 ながいも

### 今後の農作業の留意点

- (1) 頂芽付小型1年子の早植栽培の萌芽期施肥は、萌芽が50%の頃に窒素成分で10a当たり6～10kg施用する。
- (2) 普通栽培の植付適期は5月中旬～6月上旬なので、計画的に植え付ける。ただし、切りいもは5月下旬からとし、切断後早めに植える。
- (3) 覆土は、植付け後速やかに6cm程度の厚さで行う。2～3週間後に、さらに6cm程度培土し、植付けの深さは12cm程度とする。

## 3 春夏にんじん

### (1) 生育状況

ア 地上部・地下部とも平年を上回っている。

イ 病害虫の発生は少ない。

表－3 春夏にんじんの生育状況（5月10日現在）

場所	年次	は種期 (月日)	葉長 (cm)	葉数 (枚)	根長 (cm)	根径 (mm)	根重 (g)	備考
六戸町 犬落瀬	本年	3/15	19.3	5.7	18.5	9.9	4.8	透明ポリ トンネル
	(平年比)	2日早	(130%)	(130%)	(165%)	(175%)	(350%)	
	平年	3/17	14.8	4.4	11.2	5.7	1.4	
	前年	3/28	11.7	3.0	9.1	4.0	0.5	

注) ①平年：平成17年～26年の10か年の平均値。

②品種：彩誉7（平成17～18年は「彩誉」、平成19～20年は「ねぶたキャロ」、平成21～26年は「彩誉」）

## (2) 今後の農作業の留意点

### ア 間引き

トンネル栽培では本葉5～6枚時まで、べたがけ栽培では本葉3～4枚時までに1本立てとする。なお、次のような株は間引きする。

- ① 葉色が濃すぎるもの
- ② 葉が粗剛で刻みの大きいもの
- ③ 葉数が多すぎるもの
- ④ 生育が極端に良すぎるもの、または悪いもの
- ⑤ 病害虫の被害があるもの

## イ 温度管理

(ア) トンネル栽培では、高温障害を防ぐために温度管理を徹底する。

① 4葉期まで：30℃以下      ② 5葉期～：25℃以下

③ 5月下旬：順化（棲、裾は開けたまま）

④ 6月上旬：除覆（平均気温15℃以上）

(イ) ベたがけ栽培では、本葉5～6枚時を目安に除覆する。ただし、この時期に低温が予想される場合は、本葉7枚頃まで除覆せず保温に努める。

## ウ 追肥

(ア) トンネル栽培では、本葉5～6枚時に窒素、加里とも成分で10a当たり3kg程度の追肥を行う。

(イ) ベたがけ栽培では、本葉3～4枚時に窒素、加里とも成分で10a当たり3kg程度を追肥し、本葉5～6枚時にも同様に行う。

## 4 春だいこん

### (1) 生育状況

ア 地上部・地下部とも平年を上回っている。

イ 病害虫の発生は少ない。

表－4 春だいこんの生育状況（5月10日現在）

場 所	年次	は種期 (月日)	葉 長 (cm)	葉 数 (枚)	根 重 (g)	備 考
おいらせ町 内山平 (旧百石町)	本年	3/15	40.6	25.5	538	透明ポリマルチ＋ 透明ポリトンネル
	(平比)	6日早	(110%)	(128%)	(313%)	
	平年	3/21	37.0	19.9	172	
	前年	3/28	34.1	22.1	102	

注) ①平年：平成17年～26年の10か年の平均値。

②品種：春の星（平成17年のみ「喜太一」）。

### (2) 今後の農作業の留意点

#### ア 収穫

根部の肥大状況を確認しながら適期に収穫する。

#### イ 病害虫防除

キスジノミハムシの発生が見られるほ場では、トンネル除去後、早めに防除する。

## 5 ばれいしょ

### (1) 生育状況

植付期は平年より14日早かった。気温が平年並からやや高く推移したため、萌芽期は8日早かった。好天に恵まれたため、草丈は上回っている。

表－5 ばれいしょの生育状況（5月10日現在）

場 所	年次	植付期 (月日)	萌芽期 (月日)	草 丈 (cm)	茎 数 (本)
三 沢 市 三 沢	本年	3/29	4/28	15.2	2.5
	(平比)	14日早	8日早	(241%)	(100%)
	平年	4/12	5/ 6	6.3	2.5
	前年	4/14	5/ 6	4.3	2.3

注) ①平年：平成15年～19年、平成21年～24年、平成26年の10か年の平均値。

②萌芽期の平年：平成15年～17年、平成21年～24年、平成26年の8か年の平均値。

③品種：メイクイン

## (2) 今後の農作業の留意点

### ア 培土と追肥

1 回目の中耕・培土は草丈 10 cm 頃を目安に行う。2 回目は、着蕾期（40～50%の株が蕾を着ける時期）に窒素成分で 10 a 当たり 4～5 kg を追肥してから行う。

### イ 病虫害防除

6 月中旬以降になると病虫害が発生しやすくなるので早期発見早期防除に努める。

なお、疫病の防除は予防散布を徹底するとともに、同一薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤をローテーション散布する。

## 6 メロン

### (1) 生育状況等

定植は、好天に恵まれ平年並から数日早く行われた。活着は良好で、生育は概ね順調である。

### (2) 今後の農作業の留意点

#### ア 温度管理

トンネル内の温度は 15～30℃を目標に換気し、雌花の確保と生育促進に努める。

#### イ かん水

降雨のない状態で畑作りが行われたため、乾燥による生育抑制が懸念されるほ場ではかん水に努める。

#### ウ 整枝・着果

(ア) 子づる 2 本仕立てとし、うねと直角方向に誘引する。着果節位は子づるの 10～15 節とし、子づる 1 本当たり 3～4 果連続で着果させる。子づるは 22～25 節前後で摘心する。

(イ) 孫づる(わき芽)は、着果節位までは早めに全てを除去し、着果節位の孫づるは、開花期前後に 1～2 葉残して摘心する。着果節位より上の孫づるは、順調な生育状態では全て除去するが、草勢が弱い場合は 1 葉を残して摘心する。つる先の 2～3 本は、生育調節のために残しておく。

#### エ 交配

着果節の開花 7 日前までにミツバチの巣箱を畑に設置し、蜂の訪花活動を促す。

蜂の動きが活発でないときは人工交配を行う。人工交配は、雄花の花粉を直接または筆で雌花の柱頭に軽く付ける。また、不順天候の場合はホルモン処理を併用する。

#### オ 摘果

果実が鶏卵大（着果後 7～10 日）の頃に、形状の良いものを子づる 1 本当たり 2 果残す。

---

◎メロンやいちごなどの園芸作物で、花粉交配用ミツバチが確保できない場合には、各地域県民局地域農林水産部まで御相談ください。

---

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！

---

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬の飛散を防止する！
- 2 農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てない！
- 3 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認！

農薬情報 ([http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_info/](http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/))

農薬登録情報検索システム ([http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm))

---

◎春の農作業安全運動を展開中です（4月1日～5月31日）

例年、4～5月は、農作業事故が多くなる時期となっています。

- 1 高齢者の事故多発！農作業は、あせらず、急がず慎重に！！
  - 2 ほ場への出入りや傾斜地は要注意！機械の転倒・転落を防ごう！
  - 3 機械点検時には、エンジン停止！機械への巻き込まれに注意！
- 

---

連絡先	農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線	3462
直通	017-734-9481

---